



●レオナルド・ダ・ヴィンチ

★ダ・ヴィンチ[Leonardo da Vinci]
1452年、イタリアに生まれる。絵画・彫刻・建築・工学など幅広い分野で活躍。「最後の晩餐」「モナ・リザ」などとして有名である。1519年、没。

は、ライプニッツの選言によってつくられたといわれています。ドイツのアウグスターもライプニッツがつくり、彼はその初代の会長を勤めました。

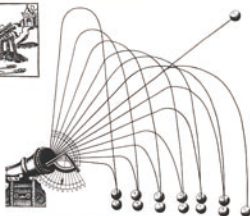
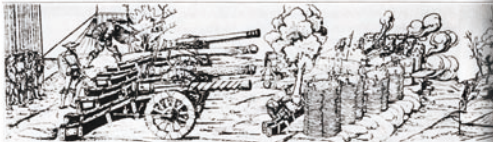
ライプニッツの哲学は、「あらゆるものを説明させよう」という傾向を強くもっていると思うのですが、やはり、そういう動機からはいったからだろうと思います。ニュートンが亡くなった1727年がこの時代のピリオドだといってもよいようです。

●—なんでも屋が多い

この時代の人の大きな特徴は、いまのように学問が細かくわかれていないで、なんでも屋がたくさんいたということです。典型的なのは、科学の分野ではライプニッツで、芸術の分野ではレオナルド・ダ・ヴィンチです。ダ・ヴィンチは第一流の絵描きであり、軍楽家であり、機械家であり、自然科学者でもありました。これはいもばん極端な例ですが、どの人もこういう傾向をもっていました。

たとえば、ガリレオはひじょうに音楽が得意です。現在のオーケストラのポリフォニーという理論をつくったのはガリレオのお父さんがそうですし、彼自身もたいへん楽器がうまかったそうです。

こういう点でも、いまの学者とだいぶ傾向がもろいようです。



【近代科学革命の時代—科学者】
悪魔の発明品【火器と野戦】

近代の戦争は野戦の新しい時代のほどもありもなかった。火器の発明によって、大規模な戦術が可能になり、大戦がいつの日も起こるようになった。フランスの将軍アール・ド・モンテスキューは火器を「あれあれと互いに殺しあわせる悪魔の発明品」と呼んだ。

よから—

- 銃の発明—銃門地しのりから。
- 銃の改良—銃は改良される。
- 大砲による戦争—16世紀なかごろまで、ヨーロッパの戦争の中心は大陸であった。しかし、戦争の中心はヨーロッパから地中海へ移動していった。
- 16世紀の野戦戦—①はフランスの領土を襲撃するフランスの兵隊の発明で、砲臺を撃つのに使われた。②はその砲臺の改良品。砲臺の改良品は、左側にある砲臺の形が異なる。砲臺の改良品は、砲臺、大砲、銃の改良品である。砲臺の改良品は大砲、砲臺改良品が砲臺まで改良、砲臺の改良品が改良された。

